

土木学会 コンクリート委員会
平成 24 年度 第 3 回規準関連小委員会 議事録 (案)

日時：平成 24 年 10 月 10 日 (水) 14:00～17:20

場所：土木学会 E・F 会議室

出席者 (敬称略)：鎌田委員長、上野幹事長、石野田、内田、小川、片平、加藤、川西、国枝、蔵重、
坂本、田中、椿、東田、中村、野島、野村、日比野、堀越、丸岡、皆川、森、山口、横尾、横関
以上 25 名

配布資料

- 3-0 平成 24 年度 第 3 回規準関連小委員会議事次第 (案)
- 3-1 コンクリート委員会 規準関連小委員会 委員構成 (案)
- 3-2 平成 24 年度 第 2 回規準関連小委員会 議事録 (案)
- 3-3 (セメント・水・骨材・混和材料 WG)2013 年版最終版への見直し作業における気づき
- 3-4-1 (フレッシュコンクリート WG)2013 年制定コンクリート標準示方書[規準編]土木学会規準目次
- 3-4-2 (同) 25.傾斜管によるプレパックドコンクリートの注入モルタルおよび PC グラウトのレオロジー一定数試験方法 (案) (JSCE-F 546-2013)
- 3-5 (硬化コンクリート WG 野島委員) PC グラウトの試験方法の土木学会規準化について
- 3-6 (製品、施工機械等 WG) JSCE-H101 2013 年版 新旧対比表
- 3-7 (同) 1.プレキャストコンクリート用樹脂系接着剤 (橋げた用) 品質規格 (案) (JSCE-H 101-2013)
- 3-8 (同) JSCE-H101 強さ試験規格と引用 JIS 規格
- 3-9 (同) JSCE-I 501 2013 年版 新旧対比表
- 3-10 (同) 1.連続ミキサの計量・供給性能試験方法 (案) (JSCE-I 501-2013)
- 3-11 (同) JSCE-I 502 2013 年版 新旧対比表
- 3-12 (同) 2.連続ミキサの練混ぜ性能試験方法 (案) (JSCE-I 502-2013)
- 3-13 (同) JIS A 5308 追補の概要
- 3-14 (補修材料 WG) 2013 年版土木学会規準 K シリーズ (補修材料) 改訂内容
- 3-15 (同) 1.表面被覆材の耐候性試験方法 (案) (JSCE-K 511-2013) ～
16.四電極法による断面修復材の体積抵抗率測定方法 (案) (JSCE-K 562-2013)
- 3-16 (同) JIS K 7113 (プラスチックの引張試験方法) の廃止に伴う確認事項
- 3-17 (鎌田委員長) 第 2 回コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関するシンポジウム
- 3-18 (電子化 WG) 規準関連小委員会 電子化検討 WG 資料

議事内容

1. 委員長挨拶

鎌田委員長より平成 24 年度第 3 回規準関連小委員会開催にあたっての挨拶と以下の説明がなされた。

- ・示方書改訂版の発刊について、設計編、施工編、基本原則編は2012年度内の発刊、維持管理編、ダムコンクリート編および規準編は2013年度の発刊になる。
- ・規準編改訂に伴う行事（説明会）を維持管理編、ダムコンクリート編と合同で行うかについては、鎌田委員長が二羽コンクリート委員会委員長に相談する。
- ・PCグラウト関係の規準は、年内に常任委員会の承認を得るために、10月18日の常任委員会幹事会を経て、10月30日の常任委員会で審議要請、12月20日の常任委員会で承認というスケジュールとする。

2. 委員の交代について

資料3-1に基づき委員構成の確認および次の2名について交代の説明があり、小委員会として承認された。本件は10月30日の常任委員会に諮る。なお、両名とも所属するWGは前任者と同じである。

関野武志委員から斎藤和則委員（経済産業省）へ交代、所属WG：製品、施工機械
三谷芳弘委員から石野田昭彦委員（㈱神戸製鋼所）へ交代、所属WG：鋼材、補強材

3. 前回議事録の確認

資料3-2に基づき、内田委員から説明があり、以下の2点の修正をもって、(案)を取り議事録とすることが承認された。

修正1：3ページ7行目、『これらの規準は、』の後ろに「プレストレストコンクリート工学会の」を入れる。

修正2：3ページ16行目、『再度討議することになった』を「再度審議することになった」に換える。

4. セメント・水・骨材・混和材料の改訂作業について（セメント・水・骨材・混和材料WG）

資料3-3に基づき、片平WG主査より説明があった。審議の結果は以下の通り。

- ・資料中のC.4. (JSCE-C 504)：数式に日本語の文字が含まれる場合、日本語文字列をアルファベットなどの文字に置き換えることを基本とする。ただし、作業量が多いような場合は、数式エディタで用いる日本語文字サイズを、バランスの関係から現行の12ptから本文と同じ9ptに変更する。本件は、他の規準にも水平展開する。
- ・資料中のD.1. (JSCE-D 102)：急結作用の強い場合の締固めについて、「注」による場合と「附属書2」による場合の二通りが記載されており、再度WGで検討する。併用することも念頭に置く。
- ・資料中のD.2. (JSCE-D 104)：規定を表現している「注」は、本文に入れる。
- ・資料中のD.4. (JSCE-D 501)：「セメントの混和材の混合率を3%と仮定」とあるが、セメントのJISでは5%が上限となっており、3%の根拠が分からないので、引続きWGで検討する。根拠の分かる委員は、片平WG主査に連絡する。

5. 鋼材・補強材の改訂作業について（鋼材・補強材WG）

樁WG主査より、特に審議するものはなく現在改訂作業中との説明があった。（前回議事録では、書式の変更が主な作業とのこと）

6. 硬化コンクリートの改訂作業について（硬化コンクリート WG）

横関 WG 主査より、以下の説明があった。

- ・ JSCE-G 504 硬化コンクリートのテストハンマー強度の測定方法（案）では、打撃点数が JIS と異なるなどの相違点があり、情報を収集した上で、相違点等が明確となるよう書き方を工夫する。
- ・ 硬化コンクリート関係の規準は関連規準が多いので、注意して作業を行っている。
- ・ 次回 12 月の委員会には、改訂箇所等に関する配布資料を準備する。

7. 製品・施工機械の改訂作業について（製品・施工機械 WG）

資料 3-6～3-13 に基づき、内田 WG 主査より説明があった。審議の結果は以下の通り。この他の改訂案

については、異議はなかった。

- ・ 適用範囲の注記に、「この規準はコンクリートライブラリー59 の発刊に伴い制定された・・・」との記載は不要とする。これは、目次に（CL59 連続ミキサ指針）のように記載があるためである。なお、制定当初の CL が改正となるような場合は、適用範囲の備考として、改正の経緯を記載する。
- ・ 新規規準については、経緯が分かるように、引用指針などを目次に書く。
- ・ 規準の名称の（案）は、修正があったものについては残す。修正の無いもの、および「て・に・を・は」を修正する程度のものは、（案）を取る。引用 JIS の名称、番号が変わった場合も修正して、（案）とするが、JIS の年号の変更はこれに含まない。
- ・ JSCE-H 101 の接着強さ試験において、引用 JIS の改訂に伴い、試験速度に関して現行の荷重制御のみから変位制御を追加する件については、WG でバックデータの調査ならびに JIS が変位制御のみになった理由の調査を行う。併記することになった場合は、試験条件の報告にその旨を盛り込むことを考慮する。
- ・ JSCE-H 101 の引張強さ試験において、使用する試験片の名称は記載しないこととする。これは、JIS K 7113 の廃止に起因するものであり、かつ JSCE-K 541（補修材 WG）との整合性を図るものである。
- ・ JIS A 5308-2009 が「追補」の形で改訂されたことを受けて、【規準編 JIS 規格集】の目次は、JIS A 5308-2011 とし、本文中に「追補」のページを設ける。

8. フレッシュコンクリートの改訂作業について（フレッシュ WG）

資料 3-4-1、3-4-2 に基づき、日比野 WG 主査より以下の説明があり、承認された。

- ・ 新設の JSCE-F 534、535、536 を次回常任委員会の審議にかける。
- ・ 【規準編 JIS 規格集】 JIS A 1144、JIS A 1156 は、現場の利便性から<省略>を止め、掲載することとする。
- ・ 【規準編 関連規準】 JHS419、420 は上記新設規準に移行するので割愛する。
- ・ JSCE-F 546-2013 の『レオロジー一定数の測定・・・』は、「レオロジー一定数の推定」とする案も出たが、「測定」のままとする。この他は、改訂案通り。

9. PC グラウト関係の規準改訂および新規制定について（野島委員）

資料 3-5 に基づき、野島委員より説明があった。審議の結果は以下の通り。この他の改訂案については、異議はなかったが、細かい修正は継続して行う。なお、試験方法を規定する規準については、あくまでも方法のみに特化することとし、試験体の個数は限定しないことにした。

- ・ JSCE-G 531 の英文タイトルの『for prestressing bar』を「for prestressing tendon」にする件は、ISO で使用されていることからこの単語でよいが、他の規準にも反映させる。
- ・ JSCE-F 534 の『判定』は、材料の品質を判定するイメージがあるので、表現を変える。(例：状態の区分あるいは状態の区別)
- ・ JSCE-F 534 で使用する『シース』を規定する。
- ・ JSCE-F 534 と 535 の『報告』の内容を統一する。
- ・ PC グラウト関係の規準は、プレストレストコンクリート工学会の PC グラウトの設計施工指針の改訂（現在作業中）と連動しており、同工学会が年明けから講習会を開催する予定となっているため、土木学会の規準改定・新規制定作業も急ぐ。10 月 18 日の常任委員会幹事会にかけるため、10 月 15 日までに原案を作成する。意見等のある委員は、野島委員宛にメールで連絡する。

10. 補修材料の改訂作業について（補修材料 WG）

資料 3-14～3-15 に基づき、国枝 WG 主査から以下の説明があった。改訂内容に特に異議はなかった。

- ・ 担当する規準の改訂内容は、用語の統一によるもの、および規定を表現している「注」や「備考」の文章を本文に入れたことによるものが主である。
- ・ JSCE-K 541 の引張強さ試験に供する試験片は、JIS K 7113 の廃止に伴い、関連 JIS、関連規準(H101)、および試験片作製の実情を鑑み、硬質形については JIS K 7162 を引用して試験片を指定せず、軟質形については JIS K 6251 のダンベル状 5 号形とする。
- ・ JSCE-K 561 の 5.8 項の『表 3 付着試験の環境条件』について、『水中条件』に分かりやすい説明を加えたが、さらに、『製造業者が指定する期間』と『材齢 28 日』が併記されていることについても説明を加える予定である。

11. 示方書の軽量化について（電子化検討 WG）

鎌田委員長より、二羽コンクリート委員会委員長も「軽量化」に賛成である旨説明があった。

資料 3-18 を用いて、日比野主査より軽量化 A 案、B 案、C 案の説明があり、本小委員会としては C 案を推すこととした。

次回の小委員会では、価格の調査結果（流通量に左右される）を提示する。また、可能であればサンプルを取り寄せる。（当該の用紙が使用されている書籍でも可）

12. その他

- ・ 上野幹事長は、2010 年版規準編の目次を左側に、2013 年版の目次案を記載できる箇所を右側に配置した、各 WG の新旧対応目次案作成用のフォーマットを作成し、小委員会内で配信する。
- ・ 各 WG は上記のフォーマットを用い、2010 年版と同様に目次の改訂版を作成し、上野幹事長に返信する。
- ・ 鎌田委員長から資料 3-17 「第 2 回コンクリートの非破壊評価技術の信頼性向上に関するシンポジウ

ム」の案内があった。

- ・次回は、12月12日（水）13：00～17：00とし、終了後に忘年会を行う。

文責：小川